

AC-2

從嘉永二年癸亥九月到國七年甲寅九月

將軍 家定公時代

沛米印步改兵沛頂戴一併

沛當家 長福公時代

米良公

沛奉書藏書處

推葉公

記錄所

癸丑年

九月十二日

所錄

河判爲沙州

松年松泉松茂

右
龍
御
前

印

見作

九月廿四

一、望所月後之付山へ謝す
前廣御朱印系居候おん心

樵に新八所坑
要村李高所坑

即代智分所坑
所判物 所来印家社所坑
所周之 所来

赤永七用寅年

二月廿五日

一 松本和泉も夜内元、所来所坑、
切紙を所判物に送る、此の期日中

そふふふ、そふふふ、そふふふ

二月廿七日

一 明らつ切紙を松本和泉も夜に
所来も所来らふ、此の期日中
そふふふ、そふふふ、そふふふ

そえ

一 百名のそふふふ、
所判物 所来所坑、
所来所坑、所来所坑

本方中將痛止失治也
お改る仲付年

一
所伏之
所為

朱卯

新刊物
新刊印

出右

山左書院見之字也

勿備國難時之計

氣

即來印堂句也願知此意
付妻細書後也 弘治年

一
清江雜錄

或

願者勿忘此書

あはれ

大分県立美術館蔵

寅月

此卷乃本朝初設相公之序及近承親皇太子之命而相公

可名以之為願之

河判也 河判印出政有由地

之氣也 河判印出政有由地

有之氣也 河判印出政有由地

河判印出政有由地

尤願之 河判也

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

河判印出政有由地

上書本出願の紙は名どらひを
とらひしははきまゝのよ下
とらひしははき二押切のよ下
とらひしははき紙をきりし中
まゝに中紙のよ下はきまゝ
所出願の紙は名どらひのよ下
右の通 所出書はきまゝ武丹
はきまゝのよ下はきまゝ利法
中紙のよ下はきまゝ金冊一錯
おと金冊はきまゝ

一
即ち本出願の紙は名どらひを
とらひしははきまゝのよ下
とらひしははき二押切のよ下
とらひしははき紙をきりし中
まゝに中紙のよ下はきまゝ
所出願の紙は名どらひのよ下
右の通 所出書はきまゝ武丹
はきまゝのよ下はきまゝ利法
中紙のよ下はきまゝ金冊一錯
おと金冊はきまゝ

一
正
氣
同
源
與
代

河本仰山氏藏此書
 此書乃村教藏也
 繪山氏藏之
 文書
 鄉村帳出領
 文書
 鄉村帳出領
 文書

一、寄今之月出書內，于遊學之月。

河津印之 河津書系 河津書系
河津書系 河津書系 河津書系
河津書系 河津書系 河津書系
河津書系 河津書系 河津書系

檢理樣
所判也
總又
併
改
義

雅振
 河本
 義仕
 頂戴
 年号
 月日
 撰書
 之
 何
 題
 爲
 此
 所
 法
 乃
 載
 此
 名
 以
 爲
 了
 大
 母
 何
 改
 爲
 此
 所
 有
 之
 經
 此
 所
 有

末領之同領元おれ或ふ村帳より
又も進む一畝おれ月日あるは徳
許使えり計案内に仕く出陳を
宛て判形より及れ

一 此村より使えり此方おれより大形
計案内に計案内なるより
右程此方より計案内なるより
多る計案内日麻下にて計案内
小神麻下にて計案内なるより
日比計案内に計案内なるより

此方より計案内なるより

一 計案内なるより計案内なるより
計案内なるより計案内なるより
日比計案内なるより計案内なるより
未きより計案内なるより
計案内なるより計案内なるより

外へ村帳より計案内なるより
計案内なるより計案内なるより
計案内なるより計案内なるより
計案内なるより計案内なるより

他諸山より参りて書く
音に非ざる

一 右筆頗る通

物

清美

内田梅子

小

林忠孝

山

西澤子

室方謙

西川

久保田

望

寺

西宅

中

石

池

今

松

頂分家来

拾九

右印をさへ持て毎に持持来於
是所お渡さ申思ふも明なる
まゝとす

一西國迄

殿様より列内が持て申付
申渡東海邊迄申渡馬印
之下此迄申入お合致馬印は

武 日 主 下

此の馬印は持て申渡さる
馬印は申入

一右 河 来 印 自然 出 印 自然 出 印

主 出 印 自然 出 印

馬 印

中 村 有 勝

馬 印

松 本 三 郎

馬 印

同 人

田人

林忠志

永井忠志

中岡武人

谷武人

西平建

田村

仲村忠志

一 御朱下田

たの

田村

菊池忠志

田村忠志

田村

中村忠志

田村

林忠志

永井忠志

田村忠志

寅
四月

此後先例を以てしるべき事は甚だしく

河原和順が有る事社以

津米印出政分ち由地より余方

格利も有り同業方有る客は

河原流有る事お事社

津米印出政分ち由地より余方

格利も有り同業方有る客は

河原流有る事お事社

寅
四月

右津信

津信

松本和泉力使

と名取の事有る事津信

津信の事有る事津信

津信の事有る事津信

右津信の事有る事津信

津信の事有る事津信

四月廿八日

松平和泉書院

いとしん

和泉内系又所請之米目推業
あふん

和泉中頂戴之米目推業
清和寺上僧正

四月廿八日

河名

右等寺中頂戴之米目推業之河名

いとしん

本寺中頂戴
寺上人信之

和泉中頂戴之米目推業

和泉中頂戴之米目推業

和泉中頂戴之米目推業

和泉中頂戴之米目推業

あふん

和泉中頂戴之米目推業

和泉中頂戴之米目推業

四月廿八日

沖名

右のききは前もたは後ともあ
たし何事社より御出あらは
おきかたはるおきかたはる
はあきかたはる

七月晦

一 沖名師 沖名下沖名書無所願
同沖名書之方は張る同沖名書之方

永保寺の文徳院に中村の師は
沖名師の沖名師の沖名師の
沖名師の沖名師の沖名師の
沖名師の沖名師の沖名師の
沖名師の沖名師の沖名師の
沖名師の沖名師の沖名師の

一 沖名師 沖名師の沖名師

一 沖名師 九通

一 沖名師 七通

一 沖名師 拾五通

一 頤之目録 七通

右 頤之目録 七通

頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

右 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

令

右 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

一 長さ八九寸

一 横六寸

一 長さ一寸五分

右内法

右 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

一 右 頤之目録 七通

頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通 頤之目録 七通

巾着書字拾五通
傾首録字拾通

右軍入箱相白木 湯相

一 長き八寸七歩

一 横七寸八歩

一 深き二寸六歩

一 板厚き二寸八歩

かしきまうつ形に包み
身内法

一 箱に銘内記打とる糸長廿

一 式八寸幅六歩

一 箱包服紗漬黄羽二寸新紙

おすまの幅四寸

一 深き二寸

一 御村に透帳の箱相白木 湯相

一 長き八寸七歩

一 横八寸七歩

一 深き二寸六歩

一板字步八重

町字差之形之付と内法

一環有是目一結不付

一服紗右付武陽中寄松葉

右河東印字入相束之厚人一式

主唐金助寄納

一寫入相書付

御朱印寫 九通

御里節寫 一通

領知目錄寫 一通

米良山 御奉書寫拾五通

相良志麻守

一 鄉村高辻帳相書付

鄉村高辻帳

相良志麻守

右河東印字入相束之厚人一式

一 河津印帖中横書きの紙に
紙を河津本紙より裁き
其の形は小かき河津本紙とお
讀み年号月日下河津印有
所御朱印と云細書あり

一 紙天保庚申河津印合に
破田七郎清の帖中人は横書き
武が元中河津印合に横書き
お河津印合に横書き
以味より河津印合に横書き

一 河津印合に横書き
以味より河津印合に横書き
河津印合に横書き
河津印合に横書き
河津印合に横書き
河津印合に横書き
河津印合に横書き
河津印合に横書き
河津印合に横書き
河津印合に横書き

何院様御朱印寫

出書
相良志麻守

一 宗清本紙に紙綴り色書付
宗清本書に紙綴り色書付
九色半本紙に紙綴り色書付
上書

御朱印寫

九通

當主

相良志麻守

如所真字打附書

一 宗清本紙に色書付
上書

權現様米良山

御黒印

如所真字打附書

一 宗清本紙に紙綴り色書付
宗清本書に紙綴り色書付
九色半本紙に紙綴り色書付
上書

權現様米良山

御黒印寫

當主

相良志麻守

如所真字打附書

上包極紙色上書あり

權現様米良山

御黒印寫

當主

相良志摩守

右直字打附書

一 米良山御奉書七通誠意不怠書
所奉書より大に御英文字職り
主お達し守り法元中法石不審判
有るに御守判と書く
一 写折りと英漢紙の小札押く

米良山御奉書寫

當主

相良志摩守

一 清書書通事と書くと包き七通
一 所へ奉書と包き上書なる通

米良山

御奉書寫

七通

當主

相良志摩守

一 枕家山御奉書八通右向紙に写く

折上と押れ並上色を以て上書

推葉山

津泰書寫

八通

出書

相良志摩守

一 鄉村高辻帳

帳上もの内紙調へ内月濡らるる或り
裏ざりし河印まゝ内を内月ざりしを
河印印名より河印河名判りしを
内紙を調へ紙を法なり

此帳は河名府なり村帳を内月濡ら改め
此帳より内月濡らなるあり

外

村より河帳一冊はれおるは内
紙に河印と河帳を以て河印と

河印を以て河帳を以て

此帳は河名府なり村帳を内月濡ら改め
此帳より内月濡らなるあり
此帳は河名府なり村帳を内月濡ら改め
此帳より内月濡らなるあり

一 領之目録

領之目録
領之目録
領之目録
領之目録

所判之書判之書之書判別有書
仰之書之書之書之書判別有書

出書主
相良志麻守

上包同紙上書打落書

須知目録寫 出書主 相良志麻守

一 西山河父配小河母書之書判別有書
凡之通教之書之書之書判別有書

心見

一 肥後國球麻郡米良山

米良主膳

右主膳山入祖米良山馬儀私入祖
左主膳山入祖米良山馬儀私入祖

橫現様山入祖米良山馬儀私入祖

山入祖米良山馬儀私入祖

山入祖米良山馬儀私入祖

山入祖米良山馬儀私入祖

山入祖米良山馬儀私入祖

山入祖米良山馬儀私入祖

一 昌國同梓郡推舉心

右者

出嚴有院樣印代整祖堂字
又配印付以所奉書不置
其以後

所奉印法改之長所奉書不棄
是又所奉書長印掛印同中作之

八月廿一日

相良志摩守

上色吳漢法上下折上上書

賞

所名

一 昌國同梓郡推舉心

賞

大猷院樣印朱印

先祖
人之法尉頂戴

實永永十一年八月四日

嚴有院樣印朱印

之氏同
遠江守頂戴

實文四年六月朔日

出常山憲院樣印朱印

右同入頂戴

自享元元年九月廿一日

文昭院樣印朱印

志摩守頂戴

正德二年四月十一日

一 有德院様御朱印 子代目 近江守頂戴之

享保二年八月十日

一 惺惺院様御朱印 七代目 政大所頂戴之

延享三年十月十日

一 後明院様御朱印 九代目 民部頂戴之

寶曆十一年十月廿日

一 文恭院様御朱印 曾祖父 壹波守頂戴之

天明八年二月二日

一 慎徳院様御朱印 父 壹波守頂戴之

天保十年二月二日

願き目録表出中
御村帳表出中

以上

相良志摩守使者

八月廿二日

如孫金次郎

中村友輔

上色紙渡紙下折返し上書

目録

相良志摩守使者

如孫金次郎

中村友輔

左色紙二書不付守頂戴之近江守

賞

肥後國球麻郡米母山支配
仰付以所不欠之通

一 權現院様御書仰付 先祖 元禄十四年九月廿九日

一 嚴有院様御書仰付 先祖 寛文四年八月朔日

一 常惠院様御書仰付 先祖 天明二年二月十日

一 有德院様御書仰付 先祖 享保二年二月廿一日

一 信信院様御書仰付 先祖 延享二年十二月廿日

一 後月院様御書仰付 先祖 寶曆十二年二月九日

一 文恭院様御書仰付 先祖 天明八年七月廿二日

一 慎徳院様御書仰付 先祖 天保十年四月廿二日

日四回抄部推葉山支配
仰付此所及之通

一 嚴有院様御代御奉書 壹波守不書以

明曆二年閏月十八日

一 嚴有院様御代御奉書 遠江守不書以

寶文四年六月朔日

一 常憲院様御代御奉書 右同人 不書以

貞享二年六月十二日

一 有德院様御代御奉書 近江守不書以

享保二年十二月廿五日

一 信信院様御代御奉書 政大守不書以

延享二年十二月二日

一 後明院様御代御奉書 民部不書以

寶曆十二年二月九日

一 文恭院様御代御奉書 壹波守不書以

天明八年七月廿五日

一 慎德院様御代御奉書 壹波守不書以

天保十年四月廿五日

右之通抄所及之上

八月廿一日

相良志麻守使者

加藤金次郎

書内

中村友輔

上包と書右付以

右工書に付守に不運此迄に候

賞

文昭院様代

御来仰

寺改之御意米良山

御来仰請奉書并推葉山河古書

先出中川様云

御来仰頂戴仕合

燕元河と邊に付右あふ又配之御書

不運作以上

相良志麻守使者

加藤金次郎

書内

中村友輔

上包と書賞あふ

同七月百

一 叩 清内院 覽 領 事

清内院 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰

一 叩 清内院 覽 領 事

同七月百

一 叩 清内院 覽 領 事

清内院 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰
事 候 領 事 仰 蒙 示 諭 候 候 領 事 同 仰

一 叩 清内院 覽 領 事

三山六指之次
不多中務補次
河本仰より河本
河本より河本
以上

八月

河名

大内河清に上る河も
先帳ありては此より
三山六指より河本

八月廿一日

三山六指より河本
河本より河本
河本より河本
河本より河本

河本より河本
河本より河本
河本より河本
河本より河本

八月廿二日

右書半切迄切博と云

不夕中書博

山來助公侯

山來助公侯

古沢小仲侯

相良志磨

中村五郎

大内里院使より山侯に

八月廿一日

一 明のつ切紙より右師と

切紙より右師と云書海より

明の旨九時迄

清来仰安字大徳宅上使有

一と云氣山領より月録同家自御

村帳より

八月廿一日

山侯宅

相良志磨

中村五郎

國志摩守使者

孫令安

案內

中村反哺

大徳寺
後醍醐天皇御
遷都の御事
に因りて
御遷都の御事
に因りて
御遷都の御事
に因りて

本多中務痛快
青山大悟之快

信

和朗坊

清朱印領六月錄求字號之明
大抵元後世宅上之書自見刻
家耳者之書以清切紙以
仲下以流波水急得其意以
不明於卷上之山以使者
中上作

今世沙門僧徒之出於此者多矣

一 增進院僧人 今身明日

清來印出及身 清儀出持

印來印曰守其志 山寂出宅下明

以徒名之矣 守其志 守其志 守其志

守其志 守其志 守其志

少時增進院僧人 守其志

守其志 守其志 守其志

守其志 守其志 守其志

一 殿前 石為石 守其志

守其志

一 殿中 守其志

清來印出及身 清儀出持

印來印曰守其志 山寂出宅下明

以徒名之矣 守其志 守其志

八月廿一日

一 今日 清來印出及身 清儀出持

印來印曰守其志 山寂出宅下明

中村在瑞
信口每通

清来仰入
长持一棒
掌领

摩下

长持西振
西振子
长持中角之

清音板袖

是晚武人

清音板

人望

清音板

武

大月郎

长持金持

人望

大月郎

傳使者
不待命也

借口

若使主王
相識之
若使主王
相識之
若使主王
相識之

若使主王
相識之

若使主王
相識之

若使主王
相識之

若使主王
相識之

若使主王
相識之

一 今將武人武人

一 長持相帥古公新親中親事

一 長持相帥古公新親中親事

一 長持相帥古公新親中親事

一 長持相帥古公新親中親事

一 長持相帥古公新親中親事

一 長持相帥古公新親中親事

一 長持相帥古公新親中親事

一
一
所至國をめぐりて海を渡るは
御朱印をふりかへしるは使の法
か無き事なり事の中村の補明
此金浦の事なり小矢松の使
お誠左補斗法を問ふは海
三層も所なり

御朱印使えり者出づるは
此後此事なりと云ふ事なり
御朱印入るは使の法なり

使の法なり 御朱印は使の法なり

御朱印は使の法なり 御朱印は使の法なり
受れり御朱印は使の法なり
御朱印は使の法なり 御朱印は使の法なり

御朱印は使の法なり 御朱印は使の法なり
御朱印は使の法なり 御朱印は使の法なり
御朱印は使の法なり 御朱印は使の法なり

松半周防彦
松半金馬彦

松半丹波彦
内友同博彦

河中人

此方彦

同 但馬彦

細川金馬彦

保長彦

吉本中津彦

建武内田彦

牧中德地彦

井上内田彦

永井紀重彦

増山内田彦

一 中務卿大人格範彦列座不備

此段入格人等以秋村宗書以湯淺
半島宗頼以新八郎宗興以村中宗賢以
此書序以順通氏政之出羽人
坂部半中郎以宗賢以左捕之北畠
宗山以河本義興以清書院之出羽
左捕持重以相次以半本結之清書
宗賢以道 清書印 清書印
道之下願以同族宗山以河本之半
本結之結以持以人宗賢以清書院之
宗賢以道 清書印 清書印

一 江戸の御朱印 江戸御朱印

寺々々々名蹟寺々々々居間に居て

殿様は江戸に居るは江戸に居る

江戸に居るは江戸に居る

江戸に居るは江戸に居る

江戸に居るは江戸に居る

一 江戸の御朱印

江戸に居るは江戸に居る

江戸に居るは江戸に居る

一 江戸の御朱印

一 江戸の御朱印

たて通

江戸

松平

今日 江戸御朱印

江戸御朱印

江戸御朱印

江戸御朱印

江戸御朱印

とる海に大出の風を安んず船防備清
く白の海をさく出に救戒符をさ
すまき 河津船に止る人おれり

八月廿四日

一 寺山へ詣りて境内の元へ出でておの
れ切敷の領を同様にさす所はなる明き
九斗の寺へ来ておのれをさす所はなる
寺切敷の領を見れば明きなる領を
清月流と名づけし所は九斗の寺

寺へ来ておのれをさす所はなる
領を

八月廿四日

古澤の寺へ
おのれをさす所はなる
中村の寺へ
おのれをさす所はなる
おのれをさす所はなる
おのれをさす所はなる

八月廿五日

一 今日出願之月録を家へ送付存付
海書宛大抵已候上之由申付願之月録
此門今申お送り付本紙を此紙に申
所出之由候事

一 大層の出使を家へ通

清江上 申付大抵已候

一 卯女之旨を申付申上願之月録
此因今お海本紙此紙に申上

惟請況申上為清江上使名
申上

清江上 本多中務痛候

今日より大抵已候所宛上
家申上之者多し一卯女之旨を
申上願之月録清江上今お海
本紙此紙に申上惟請況申上為
清江上使名申上

右所使を申上候申上之由申上

お勤本より後、中平度使よりお海に
 以て居た人お勤本
 一 河原之國源氏迄市と成り付事願
 左之通

扶相門、河名礼海之
 思ぬ、河米印相一
 聖照沙包内合

事願
 一西澤子島

乙乙

望望々々
 授あけ
 中園々
 中望

大い海に當るは所お誠々々
 一 河米印事願が所々々々々々々々
 左之通

一 麻河上下二具
 内田極全

今度 河来印守様々
印守様々 河来印守様々
河来印守様々

一 合... 河来印守様々
右 河来印守様々
河来印守様々

一 河来印守様々
河来印守様々

右 河来印守様々
河来印守様々

一 河来印守様々

右 河来印守様々
河来印守様々

一 河来印守様々
河来印守様々

右之八度 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降

一 河来印降

免田 紋子清 山田 利地
免田 印年 免田 利地
免田 清年 免田 利地
免田 清年 免田 利地

右之八度 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降

河来印降

河来印降 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降

一 河来印降

免田 紋子清 山田 利地
免田 印年 免田 利地
免田 清年 免田 利地
免田 清年 免田 利地

右之八度 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降
河来印降 河来印降

河来印降

八月廿九日

一 御朱印出改之席お海山村於此素
平願也且涉既不此反之通

一 麻河下 一具

不在令安

右 御朱印出改之席お海山
村 涉既平願之

一 河橋 一具

菊池寺

右 河橋 御朱印出改之席お海山
村 涉既平願之

一 麻河下 一具
一 深河下 一具

中村友輔

右に以て分派して其の政を
之に治めしむるは其の政を
之に治めしむるは其の政を

一 今より一層之を

其の政を
其の政を
其の政を

右に以て分派して其の政を
之に治めしむるは其の政を
之に治めしむるは其の政を

お海に付て其の政を
之に治めしむるは其の政を
之に治めしむるは其の政を

一 日武正

其の政を
其の政を
其の政を

右に以て分派して其の政を
之に治めしむるは其の政を
之に治めしむるは其の政を

お海に付て其の政を
之に治めしむるは其の政を
之に治めしむるは其の政を

一 今より一層之を

其の政を
其の政を
其の政を

一 所来仰出改定席おはし
殿様松葉清酒清吸わらば酒
其外清酒を不た之通

一 出吸わらば酒葉之根
梅酒の 出吸人中

一 出酒を二根 根は受て出石葉や
出吸わらば之例

申すは二階

出石葉中
掌領出儀

一 大梅の方を清酒は之を不ら半
一所来仰出改定席おはし清酒月之便
出石の 出掛合之事

十月廿七日

一 大梅の方を清酒は之を不ら半
中へ清酒を不ら半清酒同席酌を
尤下札の中へ清酒を不ら半

以て清酒は之を

二月廿日

一 松平親王様より出渡り書付
去冬大目付帳より仲立書付の中
に御座り候書付は自松平親王様より
解り申上り候通

此帳より

病氣より幼少より

右より願ひ

河判物河判米下宿裁取書付

名代名茶書付より廿一日迄
和泉寺宛より先書付候書付
二月

二月廿日

一 大目付帳より出渡り書付
此別紙より通る書付は自松平親王様
より解り申上り候通
此内元清河判物
河判物
河判米下宿裁取

高野先生より書きたる書目
中條一幸宛に書きたる書目
姓名おぼしめし書きたる書目
河内中条に書きたる書目
のりあふたし書きたる書目
有るは名代に書きたる書目
代に書きたる書目
中条一幸宛に書きたる書目
姓名おぼしめし書きたる書目
のりあふたし書きたる書目

二月廿二

高野先生宛
中条一幸宛

高野先生宛

中条一幸宛

高野先生宛
中条一幸宛
のりあふたし書きたる書目

一
右
高野先生宛
中条一幸宛
のりあふたし書きたる書目

通に須い
河判也 河未印に河載あり
病氣は久余に也
城將おあはれにまうらうと云ふ
貴日とて中候の事客目
病氣幼少なる名代は乃ち方ハ
名代は乃ち方代りたはれおは
日女七日よして也
河城中にいと持来自方所
うと云ふ所をわが氣をなす仲候

有るいふ名代は乃ち河日人
は仲は候なる事あると云ふ
名代は乃ち方代りたはれおは
日女七日よして也
河城中にいと持来自方所
うと云ふ所をわが氣をなす仲候

二月は二百
稲葉伊豆守
石田あ

清江信玄

面書

此物は同席中にも書きたるものなり
此物に付ある書もこれとおなじ

二月二日

一 松平初代より此物に書きたる
式目大目付帳に付ある書中
此物に付書きたる信玄初席
初席より此物に書きたる

傾

河判物

御朱印初頂戴

面書に付書きたる中若年より

中におなじ書

一 病氣幼少の面書に付書きたる

右の如き事

一 二月頂戴の面書に付書きたる

名氏に付書きたるに付書きたる

と書きたるに付書きたる

此物に付書きたる

平江府民部司
二月

河判物 河米印以氣之句
清心明也 城まゝり集彦
一にお揃と智礼まゝり付の如
迷刻し句まゝりを二解おる
智礼未寄仍あうが下なる石まゝ
おや尤も代つた書に句を寄
り漢紙おきこふ要法清心明

[illegible]

之月

[illegible]

二月官

一 涉元中使所達所 涉元中使所達所 涉元中使所達所

其意亦非

涉用之儀以爲明日之儀
也 城元中使所達所 涉元中使所達所

二月官

內及紀元中

久世大和
牧野備前
阿比伊勢

相良王替之度

右元中使所達所 涉元中使所達所

猶以若病氣之在者名代可也出有書將
其意亦非

涉奉書所見仕儀涉用之儀

馬亦不克

所
入
所
之
中
に
お
か
け
る
事

大尉柳公
辛之石所附周
平考

濟照院卜明日也

城守萬端首尾以義相濟

張氏周
子規

清江書院藏本

明日

清來印譜

清室書

小長持一棹

太平清名張茂文銷度

入止

内箱

桐白朮

煮黑之泥打

叙前黃志田

但印苑

寸法
何
是
藏
内
法

一 長を尺七寸余
 一 横守之寸
 一 深或寸余
 一 板厚を寸八厘
 上包紫漆而披沙漆入先重而改之長
 如年と用也

外箱
 板白木

組わを蓋

板木漆木田打
 引金一階ん

居巻

段長如年と用也

寧似

下

桐木漆木
 中若健人
 足膝口人
 板丈口人
 桐油花長約派花
 桐油
 挑蛇町
 人足と人

んらん

西澤士
第り九式

右列限小區爲屋舍分派公家勸各戶遷
一 遷宅

登城仁侯

相良志摩守

右屯城之石坊之氣狀如

一 匪徒目付高番所 以爲是片安年元
長古筆了

二月廿日

一 厨部介統七時之正法探之而厨部計日
 市部請之為 正遊正登
 城以分所為居安人喜而為宅方頗人因道
 安於下馬見公法以明之而安於下
 市米不箱介箱先反出一方頗正法登

一
 寧臥於海濱而居波守後遇其
 民屢發述其人波海亦不細此方表清
 按之清言云云云云相大所居海
 表清居海國人曰波海亦不細此方表清
 表清居海國人曰波海亦不細此方表清
 清清之於人當其也
 一
 鳳都之遺者周光若清元中改之
 清也勤法也凡也

清朱不頂戴之
 清澄

相良志摩守

右色也也勤也
 清清清通風

清朱印之遊涉境事

但此言 清清好皆有之

清朱不亦身表清居之清封不之清封也

鳳都表 清清改式也

清朱不相之願事

一
 清朱不亦身之清朱不亦身之清朱不亦身之
 清朱不亦身之清朱不亦身之清朱不亦身之

一 氏松氏之是

既訪庄物

一 氏

今日

一 清米印頂戴
亦分其印扣印以不
亦好右所授十也度心使之日琢
之也改出項公

一 月

一 右也之也

一 清頂戴

清米印光之印戴

一 清米印光之印戴
清米印光之印戴
掛之度入持指夫張印廣乃亦之上
之也如右之也乃持之退人教帶之
以月也月利服之也

二月八日

一 清米印光之印戴
切紙之米印光之也

心後波破云所領公目錄下
所領公九月九日所領中勢大補宅
所領人亦於中勢大補大拾元
中勢大補大拾元

中勢大補大拾元

二月八日

川平助為

古沢小中

古沢小中

相良之藤子

中勢大補大拾元

中勢大補大拾元

古沢小中

中勢大補大拾元

二月八日

昨日明日子如者此在書下中上各取
仕則月色也

相良志能也

并良銀花

有金也

二月九日

今日清傾分清目錄相續身為清元

并良銀花也

相白木箱

紫後沙色

捷箱入込

此箱清朱个箱用

清名札押

寧傾

上

細木箱

足松武

抄

渠乃武人

んん

人定天

名披露有之中勢大彌散大括高安
臣筆此以乃元大括正欲思子
傾智錄元元西名正以智錄也
清元退元元元元元元元元
先元元元元元元元元元元
馬元元元元元元元元元元
子元元元元元元元元元元
元元元元元元元元元元
元元元元元元元元元元
元元元元元元元元元元
元元元元元元元元元元

佛米印頂戴之雅有仕合者其
此後為可得貴之惠且愚於此後謹之

二月五日

昭叔治路守校

泰人 清中

古尼宋女心夜

改書之五其沙之
新沙之

右色此表正展及上 正展之之之

此後為日正展及上之三月十二日正展有之

一 佛米印首尾好之正頂戴以付今日

正展之式正色

一 殿板內佛居間之白麻清正下之為

正展之式正色

二 正展之式正色

二 正展之式正色

正展之式正色

一 正展之式正色

一 个 翻 一 折 妙 毫

一 沛 松 代 之 是

分

一 沛 者 一 折 此 是 沛 者 自 沛 者 入 沛

殿 柳

殿 柳 之 远 之 沛 沛 因 入

一 个 翻 一 折 妙 毫

一 沛 松 代 之 是

殿 柳 之 远

殿 柳 之 远 之 沛 沛 因 入

一 右 沛 及 人 始 沛 者 中 无 方 沛

沛 者 上 沛 者 不 必 有 也

一 沛 者 一 卷 之 终

卷 之 终
沛 者 七 卷 终
内 田 柳 之 终

行園之寶
為良觀

一酒至二

卷七

方氏
所結武人

一 清朱子以爲戴氏極之武先年

賴完公沛在府之西

之實也。匠家中無人足色。之匠視匠。匠
 之匠。匠人始匠。匠之匠。匠之匠。匠
 有之。匠之匠。匠之匠。匠之匠。匠
 中。匠之匠。匠之匠。匠之匠。匠
 匠。匠之匠。匠之匠。匠之匠。匠
 有之。匠之匠。匠之匠。匠之匠。匠
 匠。匠之匠。匠之匠。匠之匠。匠
 有之。匠之匠。匠之匠。匠之匠。匠

一 酒代金八百足

凡武家

給人

所進習

小紅

中

所統士

外能者

但所者七人方所所統士

一 田方自武所所統士

足輕

凡武家

所中乃所

所馬九

人足

但所所統士

右無列之語令之者人元所

所家元所所統士

所國人

一 右所所統士

一 清癸丑月一

朱良規

有 清癸丑月一
清癸丑月一
清癸丑月一
清癸丑月一
清癸丑月一

一 清癸丑月一

林忠

永井

有順

有 清癸丑月一

有 清癸丑月一

有 清癸丑月一

有 清癸丑月一

有 清癸丑月一

二月十日

一 清癸丑月一

一 子方收口 首使之方也

一千 鋼一箱

一 昆布一箱

一 沸樽氏之是

松平 和泉守 役

右 沸米印 沙用 州 山 勤 殊 役

沸頂 裁 沙 流 方 之 之 山 使 之

山 爲 居 勤 之

一 鋼一箱

元

一 沸樽氏之是

沸米印 沙用

中 山 勤 殊 役

山 爲 居 勤 之

友 方 役

沸米印 沙用 州 山 勤 殊 役

山 爲 居 勤 之

一、子武自是元

色91居

青山溪西家来

掛圖人

古沢小中寺

坂寺中堂所

林安寺

建具小之所

後部所為

有去年山

河米下匠改片河園里活世河

之海山長

河米下首尾好皮頂戴那之

河米下首尾好皮頂戴那之

以紙派乃持世

但度之序お茶お茶

一、度之進

河頂戴

清朱中平述
 臣在朝
 以望天保度
 清頂戴
 若殿極
 以知

市廛城之負近法京此其最勝處
 正順年之冬夜法京

以爲
 清瑤城之食
 積之而遂中
 要之而遂
 清伯之而遂
 清瑤城之食
 積之而遂中
 要之而遂
 清伯之而遂

清居岡口之乃武宮并延舟也
 清居
 武宮
 延舟
 也

一、有牙腹

為

大東隱居

御朱印

市井之氣以爲之

大坂中主法長寺有守護
以月中主法修馬賢并具足相授相
為持主寺主自然其大寺以不
守護之法而所積帳色之其其

山家

修不勇人

清來中介度
清歸城之良法利月為持
主大坂中主法長寺有守護

逢平介佛
以月修馬賢寺主

山家

西野思法
寺中寫卷
人亦修馬賢寺主

清水清公
清水八郎

大坂中主法長寺

或人亦合情處
三三三

呈

或人亦合情處
三三三

平

人

人

人

内子之清書下解
人之所

或人亦合情處
三三三

月

一

或人亦合情處
三三三

或人亦合情處
三三三

月

松平

相良三摩書度

為書居

右也中身月西刻所書書乃為

左也 以月書都之切紙淨是法

之也所達之月乃月二日所

不也所書所好所動定所下子者

其增其意右所書書乃為

所書之

月二日

切紙

松平以月書都

相良三摩書度

備人

相良三摩書度

右也中身月西刻所書書乃為

月二日

一 切紙之月乃月二日所

所書之

清代名 清米个 办度身正烟个
个付言过帐并清派目派字正幼定个
个个个个个个个个个个个个个个个

月廿一日

一 月廿一日 清米个 办度身正烟个
个付言过帐并清派目派字正幼定个
个个个个个个个个个个个个个个个

一 月廿一日 清米个 办度身正烟个
个付言过帐并清派目派字正幼定个
个个个个个个个个个个个个个个个

月廿一日

一 月廿一日 清米个 办度身正烟个
个付言过帐并清派目派字正幼定个
个个个个个个个个个个个个个个个

六月六日

一 松平親家之次子、以爲在京都、一切事務、
并良之推察、以爲在京都、一切事務、
并良之推察、以爲在京都、一切事務、
并良之推察、以爲在京都、一切事務、

六月七日

一 切事務、以爲在京都、一切事務、
切事務、以爲在京都、一切事務、
切事務、以爲在京都、一切事務、
切事務、以爲在京都、一切事務、

一 余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、

一 余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、

一 余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、
余之在京都、一切事務、

馬子陽色之江人持系之香也。

一石印書而後身爲所誤

鳳柳臣書
 臣等謹將
 臣等謹將
 臣等謹將

要括以爲先南村評語中一以爲要也
上評語一評是書多乃如宋述古最標

一 河津平守より 中使より 旨抄抄

法華

一先例之舉所卜陳時便乃全以欣於身

此卷乃全夜月之便乃全夜月之便
而心亦甚書字之多并長白岳宮漢
并推承小汲人尤出極之色

清城下
名夢清草書
如意度

王以廣

以陳時便之
以爲因松平

和東坡便下
篇之六
卷之六
順中

右御書 御中

游建寧一園記

右清書院より送られたる
清書院の先達より送られたる
先達より送られたる
先達より送られたる

一 西國正教代海國等より送られたる
先達より送られたる
先達より送られたる
先達より送られたる

一 清書院より送られたる

清書院より送られたる

清書院より送られたる
清書院より送られたる
清書院より送られたる
清書院より送られたる

二年正月十一日享保之年十二月廿一日
延享二年三月五日寶曆十二年
二月九日天明八年七月廿五日天保
十年四月廿五日守奉書之乃江
下付由
上意依此名并臣之臣急度下
中流之也仍執達如件

安政二年

正月

紀伊守判

大和守判
伊賀守判
和泉守判
波前守判
伊勢守判

相良三磨書

推葉山清書

推葉山之事より記
以月々々々次々年々々々
以者耶穌宗門の法門より記し并
他所の事より記し之を中分
知れ其方より記し之を中分
以波神記より記し之を中分
波神記より記し之を中分
言上より記し之を中分
事より記し之を中分

安政二年
二月

地伊判
大和判
伊賀判
和泉判
備前判
伊勢判

相良志摩

右武無光の城前大寺に上りて
相長志願を度下りたり

六月九日

一 今子武無光

御来下り月日

西流月日

西人月日

西人月日

中ノ口

百人

有 御来下り月日

度 御来下り月日

光 御来下り月日

六月九日

一 西良山

御来下り月日

今日多乃為序也

但願神功如白雲流水在六夜五更初(續)

沙田書

松平知事

一筆路上仕役

公方採道河橋雖能立成河所
奉恩悅以出者年良小推棄之儀
以清奉書

作付以執古書

雅有法合寺長石沙請為可申上
捧恩札後恩悅讓云

河名

河名 河判

五月廿五日

阿部江勢守校
牧野備前守校
松平知事守校
久世大和守校

内藤紀伊守致

参人 清中

大田守房 出使之方

一 清中 出使之方

由多木勢大卿

吉小大松高次

米良山推系 出使之方

以月 出使之方

出使之方

右使之方

出使之方

八月十八日

一 米良推系 出使之方

出使之方

出使之方

出使之方

涉園

和泉寺及通海寺
清海寺及化度寺

和泉寺及

清海寺及化度寺

一筆路上往來

公方操直清機操能之成河所
奉恐悅以出者當有七日不度推棄
兩山之儀身之先觀之通之成下之
清奉書之執於在所不度主胎并
推棄山中者若中因以處何哉

寺長由中上之此收為可申上捧
恩此收恐增議之

七月五日 內省示日謝

松平和泉寺收

和泉寺中

右方為寺中使之人乃為

九月十二日

一 頃知目錄鄉村之過帳寫一筆為依
一 頃知目錄鄉村之過帳寫一筆為依
一 頃知目錄鄉村之過帳寫一筆為依

右要書

右者安政二年

頃知目錄鄉村之過帳寫一筆為依

帳面上書

頃知目錄寫

相良志摩之家來

頃知目錄寫書面之通沙所帳上

相良志摩之家來

安政二年九月

頃知目錄寫

頃知目錄寫

一 五年之久頃知目錄鄉村帳寫於村帳

右要書

右者嘉永七年

河津印沙改之良乃村帳

写書之通シ所准之上

常上書

肥後國球麻郡河津村之通帳写

相良志磨之家来

安政二年九月

河津印

河津勘定所

右二冊同紙を袋に入込

袋上書

肥後國球麻郡

河津印沙写一冊

河津高辻帳写一冊

相良志磨之家来

河津印

右帳面紙に古紙を貼りて
綴り張中より古紙のてし出く

但先創を以て後を以てして其後を以てして
後を以てして其後を以てして其後を以てして
其後を以てして其後を以てして其後を以てして
其後を以てして其後を以てして其後を以てして

其後を以てして其後を以てして其後を以てして
其後を以てして其後を以てして其後を以てして
其後を以てして其後を以てして其後を以てして
其後を以てして其後を以てして其後を以てして



